

# 健康アドバイス

No.237



立川総合病院 副院長  
日本ヘルニア学会理事

蛭川 浩史

## 腹壁癒痕ヘルニア②

お腹の傷のヘルニア(腹壁癒痕ヘルニア)の治療は、飛び出たお腹を治すだけではなく、いきみ、呼吸、姿勢の維持などの腹筋の大事な機能を治す事も大きな目的です。

手術では、ヘルニアの穴を縫い閉じ、メッシュで補強する方法が行われます。大きなメッシュが使われるため、感染にはとても気を使います。切開法より傷が感染しにくいので、腹腔鏡で行われる手術が多くなってきました。

腹壁癒痕ヘルニア修復術には、メッシュを挿入する部位によって、①筋層の上、②筋層と腹膜の間、③腹腔内の三つに分けられます。①は、特殊な場合以外行われないので、筋層と腹膜の間か、腹腔内に挿入される場合がほとんどです。

腹腔内にメッシュを入れる方法(図1)は、簡単に短時間で終わる反面、メッシュが腹腔内に留置され

るため、メッシュと腸が癒着する可能性があります。またメッシュを強く固定しなければならぬため、術後の痛みが強くなるといわれています。

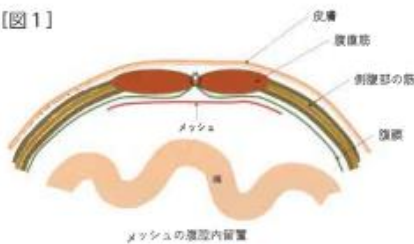
筋層と腹膜の間にメッシュを入れる場合(図2)は、腸と直接癒着することはありません。また、筋層と腹膜にメッシュが挟まれるため強力な固定は不要で術後の痛みが少なくという利点がある反面、難易度が高く、腹腔内留置の2〜3倍の手術時間がかかります。

手術は、患者さんやヘルニアの状態を細かく検討して決めます。ヘルニアが大きな方では、腹壁を縫い閉じるのは容易ではありません。このときは、腹壁を締め付ける筋肉である腹横筋(側腹部の筋層の一部)を離断して緊張を取っ

てから縫い閉じる方法があります。

ポツリヌス毒素という神経毒は猛毒ですが、適度な用量だと筋肉を弛緩させ、医療用に使用できます。美容外科では表情ジワをとるような治療に使用されています。海外では、ポツリヌス毒素を腹壁に注射し、腹壁の筋を緩くして縫合する方法が行われています。日本ではまだ認可されていませんが、今後の使用が期待されます。

【図1】



【図2】

